



最高裁裏金裁判

傍聴席は8席、警備員は40人

東京地裁で先週27日に開かれた「最高裁の裏金疑惑」訴訟で、裁判所の対応について「人権無視」「過剰反応」と怒りの声が噴出している。

最高裁の「裏金疑惑」は元大阪高裁判事の生田曜雄弁護士が告発。最高裁が税金をプールして、いよいよ

に使用しているのではない。席をその小さな部屋か、と指摘したものだ。現で、あつちには誰も出入り。100人を超える国民が原告となり、情報開示も損害賠償の請求をし

傍聴者がころも。27日に使われた法廷は4階の『420号法廷』。30

過剰反応に深まる疑惑

日中は開廷1時間ほど前から警備員ら約40人が法廷前に鉄柵とロープを張り、歩行者の動きに目を光らせてい

ました。傍聴者は入廷前、力メも携帯電話、録音機を持ち込みも厳しくチェックされ、まるで過激派扱いで

で、肝心の裁判はこうだ

ったのかといえは、訴状や答弁書の簡単な確認だけで終わり、たった5分で閉廷だった。

こんなやりとりで、大勢の警備員をかき集めるなんて税金のムダ遣いもいところ。裏を返せば、裁判所がいかに「裏金疑惑」に神経をとがらせているかという証左でもある。検査もテララメだが、裁判所も同様、日本の司法組織はグラ